

第2学年 道徳科学習指導案

日 時 令和4年9月6日（火）5校時

児 童 2年2組 25名

指導者 尾形 勇哉

1 主題名 よいと思ったことをすすんで【A 1 善悪の判断, 自律, 自由と責任】

2 教材名 「水の広場」(「新・みんなのどうとく 2」 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値観

学習指導要領第1学年及び第2学年の内容の「A 主として自分自身に関すること」の「1 善悪の判断, 自律, 自由と責任」は「よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと」とある。物事の善悪についての確に判断し, 自ら正しいと信じるところに従って主体的に行動すること, 自由を大切にするとともに, それに伴う自律性や責任を自覚することに関する内容項目である。この内容項目は, 次のように発展していく。

低学年	中学年	高学年	中学校
よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。	自由を大切にし, 自律的に判断し, 責任のある行動をすること。	自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

人として行ってよいことと行ってはならないことをしっかりと区別したり判断したりする力は徹底して身に付けていく必要がある。それを実行するためには積極的に取り組む姿勢が必要となるが, よいと思ったり正しいと判断したりすることができる力を伴った自信や自律的な態度を育てていくことができるように指導することが大切であると考え。そこで, どんな時でも, 自分で善悪を正しく判断し, それを信じて小さなことでも自信をもって進んでよいことを行うことができる児童を育てたい。

(2) 児童観

本学級の児童は, 悪いことをしてはいけないと判断できる子どもたちがほとんどである。1学期に学習した「雨上がり」でも, ひまわりのために空き缶を拾うとよい気持ちになるということを理解することができた。しかし, 悪いことだと理解していても, 自分勝手な行動を取ったり, ふざけたりする児童が見られる。実際に児童がその場にいたら正しい判断をして行動できるかという不安が残る。これは, よいと思うことを進んで行うとすがすがしい気持ちになることを十分に理解していなかったり, 友だちに注意をすることで嫌われてしまうと感じてしまったりするからだと考えた。そこで, この時期に本主題を取り上げ, 人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養いたい。

(3) 教材観

本教材は, 「みらいくん」と「あすかさん」という二人の子が中心人物である。公園で遊んで

いる2人が、自分たちよりも年上の子どもたちが「きけん 水の広場であそばないで」と書かれた看板を無視して水の広場に入って遊んでいるのを見て、注意することをためらってしまうという話である。「悪いことやしてはいけないこと」を判断する場面に出会ったとき、注意をためらうみらいくんと、進んで注意しようとするあすかさんが対比的に描かれている。教材である。

年上に対して注意できない弱さに共感させながら、物事の善悪についての確に判断し、よいと思ったことを遠慮しないで進んで行うことができる道徳的判断力を高めることができる教材である。

4 本時の指導

(1) ねらい

よいと思うことを進んで行うことのすがすがしさに気づき、積極的に行うべきよいことと、人間としてはならないことを正しく区別できる判断力を養う。

(2) 本時の手立て


①少人数における話し合いの手立て

- ・グループ学習を取り入れることで、考えを交流し自分の考えを深める。

②全体の話し合いの手立て

- ・切り返しの発問を行って自力解決で考えたことを集団解決で深める。

(3) 展開

	学習活動 発問 (○)・主発問 (◎)・予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価
つ か む 3 分	1 価値への関心を高める。 ・よいと思ったことを進んで行っていったか自分の生活を振り返る。 ○前にみなさんに書いてもらいましたが、よいと思ったことを進んでしたのはどんなことがありますか。また、その時、どんな気持ちになりましたか。 C落ちていたごみを拾った。 C係ではないけれどプリントを配った。 ○自分は友だちと同じことができますか。どんな時でもできますか。 Cできそう。 Cやりたいけどできなさそう。	・事前にアンケートを取り、その結果を電子黒板に写して確認する。  興味や関心を高める ・よいと思ったことをどのような場面でもできるか問うことで、課題意識を持たせる。
	2 教材文を読む。 ○話を聞いてどんなことを思いましたか。	・教科書の看板の絵を見て、「みんなならどうしますか?と問い、」読み終わった後に感想を聞くことを伝えてから、教材文を読む。

深
め
る

3 教材文を基に話し合う。

(1) みらいくんとあすかさんの気持ちを考える。

○水の広場で遊んでいる子たちを最初に見たとき、みらいくんはどんなことを思いましたか。

○あぶないなあ。

○けがしそうだな。

○なんできまりを守らないのだろう。

○なぜ、あすかさんは注意しようと思ったのですか。

○きまりを守っていないから。

けがをしてしまうから。

○なぜ、みらいくんはあすかさんをひきとめたのでしょうか。

○年上の子に注意するのが怖いから

○注意をしようか、止めようか悩んだから。

○どうすればよいか分からなかったから。

(2) 道徳的価値について考える。

◎あすかさんの顔と、水遊びをする子を見ながら、みらいくんは何を考えていたのでしょうか。記述

○危ないから注意したいけれど、年上の子が怖くて注意しづらい。

○注意をすると何を言われるか分からない。

(切り返しで) 怖いから注意しなくてもいいんじゃない？
注意をしなければ遊んでいた子たちはどうなるかな。


・水の広場で遊んではいけないという思いをみらいくんが持っていることを捉えさせる。

・みらいくんとあすかさんの心情を対比させて捉えさせる。

・みらいくんの心の迷いをつかませる。


・ノートに考えを記入させる。

〈対話的な学び〉
多様な考えに気付かせるために、グループ学習を取り入れる。〈手立て1〉



多様な情報を収集する

〈深い学び〉
自力解決で考えたことを深めるために、切り返しの発問を行う。〈手立て2〉



新たなものを創り上げる

・年上の子たちに注意できない心の弱さに共感させる。
・進んで行うことのよさやすがすがしさに気付かせる。
・進んで行う要因として「親切、思いやり」「規則の尊重」の価値に触れるが、進んで行うことの大切さとしてまとめる。

35分

振り 返 る 7 分	<p>4 道徳的価値の内面的自覚を深める。</p> <p>○「悪いことやしてはいけないこと」に出会ったとき、これからどうしていこうと思いますか。 記述</p> <p>C授業中にうるさかったら注意したい。</p> <p>C6年生とかがやっていたら先生に教える。</p> <p>5 今後の実践につなぐ。</p> <p>・学級で取り組んでいる「今日のキラリ」で発表された児童の紹介をする。</p>	<p>・ノートに記入させる。</p> <p>◇評価</p> <p>よいと思うことを進んで行うことができる判断力を高めることができたか。(記述・発表)</p>
----------------------------	--	--



振り返って
次へつなげる

(4) 板書計画

水の広場

よいと思ったことはす
すんでしよう

- ・落ちたごみを拾った。
- ・プリントを配った。
- ・できる。
- ・やりたいけど、できない

まよう

みらい

水の広場で遊ぶ子ども
たち

あすか

- ・あぶないなあ。
- ・けがしそうだな。
- ・なんできまりを守ら
いのだろう。

- ・年上の子が怖くて
注意しづらい。
- ・何を言われるか分かな
らないから。

- ・きまりを守っていな
いから。
- ・けがをしてしまうか
ら。